

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	13	課題区分	C	令和8年(2026年)2月13日
横断的な課題	地域資源や特性を活かし地域を支える産業振興					南信州地域振興局
地域重点政策	地域資源や特性を活かし地域を支える産業振興					
実施機関	南信州地域振興局					
事業名	オールインクルーシブ型の里山観光旅行の商品化に向けた検討	担当課	所属	商工観光課		
			電話	8-237-2262		
			E-mail	<a href="mailto:minamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">minamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線の開業及び三遠南信自動車道の開通を見据え、南信州地域ならではの強みや特性を活かした観光資源を幅広くPRするとともに、観光誘客に向けて地域一体となった観光振興を推進する。				
	現状と課題	・南信州地域には、地域住民との交流を通じた農林業や伝統工芸体験、出湯50周年を迎えた屋神温泉や日本一の星空、果樹園で本格フランス料理が楽しめるオーチャードレストラン等、地域の自然や文化を活かした豊富な観光コンテンツが存在する。 ・一方で、令和6年観光地利用者統計調査によると、南信州地域の観光地延利用者は3,889千人、観光地消費額は9,875百万円と、ともに県内10地域中9位となっている。 ・また、日帰り客の割合は84.7%と県内平均の67.9%を大きく下回っている。 ・これまで育まれてきた地域資源を活用して、地域内での周遊・宿泊を促し、観光産業の消費額を上げる(滞在期間を延ばす)取組が求められている。				
	内容 (変更後の内容)	【里山の資源を活用した体験型コンテンツの商品化に向けた検討事業】 ・サイクリングやラフティング等の自然や地形を活かしたアクティビティに加え、農林業、食文化や伝統など地域の暮らしや文化を活かした体験型観光商品化に向けて、DMOへのヒアリングや意見交換、先進地の視察を行う。  (1)管内DMOへの個別ヒアリングの実施 時期：令和7年9月 参加者：管内3DMO(南信州観光公社、阿智屋神観光局、南信州まつかわ観光まちづくりセンター) (2)先進地視察 時期：令和7年12月17日～19日 視察先：徳島県三好市 大歩危・祖谷 DMOそらの郷 参加者：管内DMO、市町村観光担当、南信州地域振興局 内容：観光消費額を伸ばすための取組、お金が落ちる仕組みづくり、滞在目的地としての認知度向上の取組、二次交通の課題・対応、インバウンド向けプロモーションの取組、インバウンド受入れに係る課題・対応等 (3)先進地視察の概要報告会(信州DCに向けた意見交換会と併せて実施) 時期：令和8年1月8日(木) 参加者：管内市町村観光担当者、管内DMO担当者 内容：視察に参加できなかった市町村及びDMO担当者向けに視察先での取組や気づき等について報告・共有し、今後の南信州の観光地域づくりの取組について意見交換				
	事業期間	令和7年4月 ～ 令和8年2月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考		
	里山の資源を活用した体験型コンテンツの商品化に向けた検討事業	(1)管内DMOへの個別ヒアリング (2)先進地視察 (3)先進地視察の概要報告会	415,250	・職員旅費 191,450円 ・バス借上げ料 200,000円 ・施設入館料等 13,000円 ・複写機使用料 10,800円		
	合計		415,250			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	先進地視察の参加者数(県職員は除く)		10人以上	2人	一部達成	
	先進地視察が「参考になった」と回答した参加者の割合		80%以上	100%		
事業実績・成果	・視察参加者数は2人(県職員を含めると6人)と目標値には達しなかった。視察実施後、視察に参加できなかった市町村観光担当者やDMO担当者にも視察概要を共有するため、翌年1月8日に信州DCに向けた意見交換会と併せて先進地視察の概要報告会を開催。南信州に今ある地域資源を活用した観光地域づくり、地域全体で統一したブランドコンセプトを持つ重要性やターゲットを絞ったプロモーションの必要性等について意見交換を行った。 ・参加者向けに行ったアンケートでは、参加者6人のうち6人が「大変参考になった」と回答。参加したDMO担当者からは、「南信州と類似性の高い観光資源を活用している一方で組織体制やプログラムの販売先には多くの相違点があり、実際に訪れてみなければ気づけない部分も多く、大変参考になった」「観光地になりそうなスポットには、必ず地域の住民が居て、それぞれ役割を担い、観光スポットとしての磨き上げを行政と地域が一緒になって行い、みんなが笑顔になれるような仕組みを創り上げている。今回の視察で、改めて地域との繋がりの必要性和関係者との連携の重要性を実感した」等の声が寄せられる等、今ある地域資源を活用した観光地域づくりに向けて、当地域の課題と可能性を認識・共有する有意義な機会となった					
今後の方向性	ターゲットに合わせた観光資源の観光コンテンツ化や訪れる人の行動心理に沿ったプロモーション手法など、南信州地域ならではの強みや特性を活かした観光誘客の実現に向けて、引き続き、管内DMOや市町村と連携して観光振興を推進していく。					